

KSK 湘南ふくしネットワーク オンブズマン (新聞)

SNET 広報34号

編集責任者：NPO法人湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本 直也
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎元町5-22 永井ビル3階
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話：090 4937 4904 定価 30円
ホームページ：http://www.npo-snet.com e メール：info@npo-snet.com



2013年度 権利をまもる講演会

当事者主権！～自分のことは自分がきめる～

上野 千鶴子 さん



撮影：岡戸雅樹

高齢であっても重い障がいがあっても、「自己決定」はできるのです。介護する皆さん、「当事者のメッセージ」を受け取ることができていますか？高齢者や障害のある皆さん、自分の意思は尊重されていますか？「当事者の時代」を迎えた今、恩恵ではなく権利としての福祉を、共に学んでいきましょう。

日時：2014年2月2日(日) 14:00～16:00

会場：JAさがみ茅ヶ崎支店5階大会議室 定員：280名

参加費：1000円(障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名は半額)

申込み：締切は1月20日(月)

お名前・ご住所・ご連絡先を info@npo-snet.com までメール送信してください。

電話でのお申込みは、080-3362-2014(上杉)までお願いします。

事前お申し込みをお受けした方には申し込み順にハガキにて入場整理券を郵送いたします。

当日必ず入場整理券をお持ちください。

なお、当日までに定員に達した場合、入場整理券をお持ちの方のみ入場いただけます。



オンブズマン養成研修会を開催しました

湘南ふくしネットワークのオンブズマン組織ができて16年、たゆまず利用者本人の立場に立ち切って権利擁護活動を進めてきています。現在総勢24名で活動していますが、この活動を担う人材を養成するために、9月28日（土）に一日かけて、法人事務所において、オンブズマン養成研修会を行いました。

Sネットでは、オンブズマン活動のほかに、法人による成年後見人等の受任、茅ヶ崎市からの委託事業である成年後見支援センター事業を行っていますが、まずは権利擁護の基本である「本人の声を聴く」実践からということで、施設に出向いて直接ご本人の声を聴き、その声の実現のため寄与するにオンブズマン活動から始めていただきます。

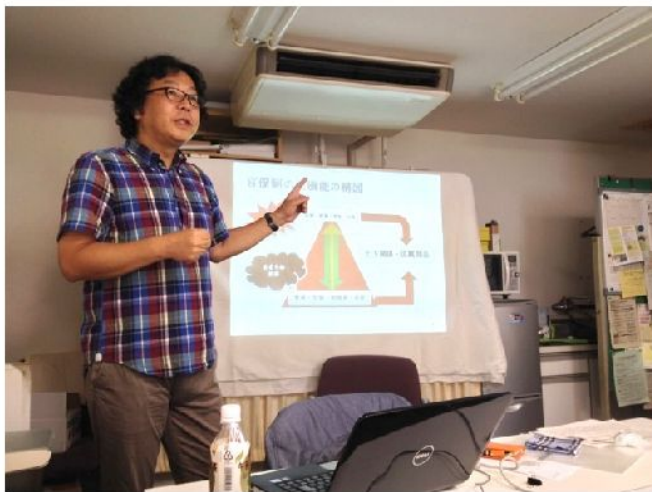
東洋大学 社会学部 社会福祉学科教授で、本法人の創設者でもあり理事である高山直樹氏より、「福祉の動向と権利擁護」「権利擁護とは何か」の2コマの講義を受けました。

「仕方が無い」「しょうがない」「そうは言っても」という言葉が世の中に氾濫しているが、私たちはその3つの言葉を封印して活動しなければならない。

日本の福祉制度は、サービスの種類は世界一だが、そのサービスメニューに利用者をあてはめている。本来は、利用者のニーズに合わせてサービスをしていかなければならない。

「消極的権利擁護」=虐待など「-」を「0」に戻す、施設をパラダイスにする自己完結のための権利擁護だが、私たちが行う権利擁護は「積極的権利擁護」で利用者の生活を豊かにし、エンパワメントや自己実現につながる「+」のものである。

権利は、個人のもの、主張して獲得するものである。自分らしさを追求する。皆が権利を主張すると、権利と権利がぶつかるが、しっかりと向き合って話し合うことが大事。話し合いを続け、落とし所で折り合いをつける。「折り合う」は「織り合う」につながり、お互いを権利の主体者として尊重し、織り合っただけで面（地域・ネットワーク）を作りだす。



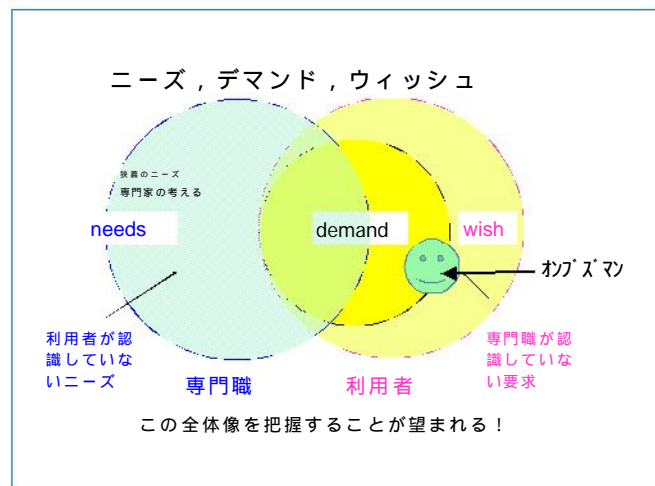
権利擁護は、社会の根幹をなす考え方で、政策や制度が変わってもぶれない「価値」である。「分からなくなったら利用者に聴け」が鉄則。



行政、教育、医療、福祉は、その効率的運営のために官僚制を作りだしてきた。初めはきっと市民、生徒、患者、利用者の側に立って進めてきたものと思われるが、上から下への流れになってしまい、あきらめと依存の構造になってきてしまっている。そこから脱出するには、対等な関係でエンパワメントしながら、「ユーザーの声を聞かないと良い物ではないでしょ」と迫る。施設や現場の中だけではどうにもならない課題、地域だけでは解決できない課題を、どんどん上に上げて行くことで、社会を変革し、ノーマライゼーション社会の実現、民主主義の確立ができる。

専門職は、利用者のウィッシュ（想い・願い）、デマンド（要求・訴え）を理解し、ニーズ（必要性）を認識して支援をする。オンブズマンは、利用者寄り添って、専門職が認識していない要求を伝える役割を果たす。

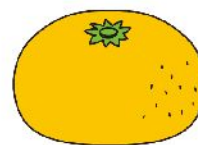
ニーズは、利用者が認識していないことが多く、ウィッシュは、専門職が認識していないことが多い。オンブズマンは利用者の側に立って、橋渡しをする。



講義の後、事例に基づいた意見交換を行ったオンブズマン活動と法人後見担当者としての活動の感覚的違いからくる戸惑いなど出された。

本人の表出している言葉のままに活動しても、それが本人の意に沿うことにはならない。数々の言葉の裏にある本当の想いまで深く深く探ることが大切。「自分でできる」は、「できる自分になりたい」ということで、自尊心、自主性を大切にして、変わって行く主体であることを信じ、関わって行く。

Sネットの実践は「あきらめない実践（実践し続けること）」「さわやかな実践（ドロドロしていないこと）」「立ち尽くす実践（最後は祈ることしかできない位、議論を深めること、また、その人を信じること）」である。



午後からは、理事である江崎康子氏による「オンブズマン活動の基本」と「自己決定支援について考える」の2コマの話があり、その話をきっかけに、意見交換を行った。



毎月第三土曜日は..... はらはら... ドキドキ... そうなんだぁ!!

湘南ふくしネットワークオンブズマンは、毎月第3土曜日10時から夕方まで行われる権利擁護委員会に出席し、意見交換することが必須条件とされています。さまざまな事情で出席できない場合は、意見をメールで述べることもできますし、議事録が必ず送られてきますので、オンブズマンが施設を訪問した結果、ご利用者の方々が、今どのような問題に直面しているかが判ります。

オンブズマンにはご本人の立場に立ち尽くすことが求められていますが、「権利を守るものは、権利を侵害する可能性のある両刃の剣である」ことを意識し、この権利擁護委員会で「気付かされる時間」を持つことをとても大事にしています。(N)

オンブズマン宣言

私たちが活動をする前提のことばです。困難な時にはこのことばに立ち返って考えることをしております。

1. 私たちは、「権利」を「その人らしく生きるために欠かせないもの」ととらえ、これを守り、かつ実現するために活動します。
2. 私たちは、「権利」を奪うこと、特に、体罰、虐待、拘束などを絶対に許しません。
3. 私たちは、その人自身が決めたこと、考えたこと、訴えたことを尊重し、秘密を守り、最善の利益のために活動します。
4. 私たちは、障害者・高齢者・児童一人ひとりが市民として地域社会でもともに暮らせるよう、社会の変革に努めます。
5. 私たちは、利用者の人たち、まわりにいる人たち、地域のあらゆる人たちと協力し、ノーマライゼーション社会の実現をめざします。

賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

賛助会員会費 ・個人 年額 一口 1,000円 (一口以上)

・法人 年額 一口 5,000円 (一口以上)

ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号：00210-9-75496

口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

